

平成28年度 学校評価 『前期・後期の比較とまとめ』

項目	●色 教師 アンケート項目 ●色 生徒 アンケート項目 ●色 保護者 アンケート項目		■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ そう思わない		肯定 否定 割合		総合 評価	
	番号	具体的な評価内容	自己評価割合 (%)		肯定 %	否定 %		
I 教育目標について	①	学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	60	40	100	0	A	
			71	29	100	0	A	
	②	若草中学校は、常にP→D→C→Aサイクルに基づいた教育活動にとり くんでいる。	31	66	3	97	1	B
			40	57	3	97	3	B
	③	「よく学び、工夫する生徒」を育成している。	31	66	3	97	1	B
			34	63	3	97	3	B
	④	目指す生徒像 「心豊かで、助け合う生徒」を育成している。	31	69	0	100	0	B
			43	57	0	100	0	B
	⑤	目指す生徒像 「健康で、たくましい生徒」を育成している。	37	57	6	94	2	B
			49	51	0	100	0	B
	⑥	「意欲を持ち、やり抜く生徒」を育成している。	29	69	3	97	1	B
			37	60	3	97	3	B
考察	<p>学校教育は、学校教育目標「よく学び、心豊かでたくましい生徒の育成」を目指し、日々の教育が実践されていかなければならない。しかしながら、この教育目標は総花的であるため、目標と具体的な活動の関連が意識されにくいのも事実である。目指す生徒像と具体的な学校の活動の結びつきを示す、さらに一歩踏み込んだランドデザインを構築する必要がある。これが、肯定評価そのものは高いが、完全に肯定しきれない所以である。ただ、前期と比較するとすべての項目で評価は好転しており、さまざまな活動において、教師がこの1年間努力してきたことが示されている。</p>							
改善	<p>・教育目標、目指す生徒像が具体的な活動と結びつくランドデザインの再構築を行い、年度当初の職員会議で確認しあい、実践していく。★校長、教頭、教務主任が中心となって、若草中教育を視覚化した新しいランドデザインを検討する。</p>							
ご意見	<p>・肯定割合が多く、大変素晴らしいと思います。今後はさらにA評価となるように意識を高めていただきたいです。 ・考察、改善の通りだと思います。頑張ってください。 ・地域に誇れる学校になるためには、教育目標は非常に大切だと思います。先生方も大変だとは思いますが、「教育は百年の計」といわれるように、いま取り組んでいることが今後の若草中学校、そして南アルプス、山梨、日本のためになることと信じて努力を続けてください。 ・評価結果は前期に引き続き全体的に高評価となっており、今後も継続した取り組みをお願いします。また、改善点に示された「ランドデザインの構築」への取り組みをお願いします。</p>							
①	職務内容を十分理解し、責任を持って仕事にあたっている。	69	31	100	0	A		
		71	29	100	0	A		
	自分の分掌と他の人の分掌との関連を考慮し、相互に連携・協調している。	57	43	100	0	A		

Ⅱ 校務分掌について

②	日々の行事と他の人の行事との関連をもち、相互に連絡・協調している。		100	0	B
③	分掌の達成状況、改善点などを管理職に「報告、連絡、相談、確認」している。	 	100	0	B
④	管理場所の安全点検を行い、常に適切な安全管理に努めている。	 	97	1	A
⑤	職員会議や校内研究会に積極的に参加し、決定事項を実践している。	 	97	1	A

考察	<p>総合的評価Aが多く、全体的な肯定評価も高いが、「連絡・協調」「安全点検」「決定事項の実践」項目の”そう思う”評価がわずかに下がっている。「連絡・協調」については、二学期以降は様々な行事が多く、そこではわずかな意思疎通のずれが全体に影響する。そこに課題が浮かび上がった形となった。「安全点検」は月に1度行っているが、同じ項目を毎月行うことがマンネリ化や慢心につながったと言えよう。安全安心な学校のための重要な取り組みであることの再確認が必要である。反面、学校教育が大過なく行われていることとも言えるが、ここに落とし穴があることを我々教師は知る必要がある。「決定事項の実践」については、全職員のベクトルをそろえることがより良い学校造りの基本であることを再度認識して行きたい。</p>				
改善	<p>・課題は小さなうちに表に出た方がよい。大きくなって対応に苦慮するよりも、早いうちの対処が重要だからである。これらは喫緊の課題とまでは行かないものの、反省点として意識し、PDCAサイクルの中で解決していきたい。 ★職員会議において全職員で確認しあう場を設ける。年度当初、夏季休業中、機をとらえて等複数回設定する。⇒教務主任</p>				
ご意見	<p>・教職員のチームワークの良さが学校の環境づくりには欠かせないと思います。それが学校生活の心地よさを生むと思います。 ・サッカーゴールが倒れて児童生徒がけがをしたり亡くなる事故が県外でありました。いろいろな安全点検をお願いします。 ・基本的には先生方一人一人のたゆまぬ努力だと思います。それなくして組織としての向上は無いと思います。常に高い意識を持って教育活動に邁進してください。 ・すべての項目について高評価となっていますが、考察にもあるように、そのことが「マンネリ」に陥らないよう、注意を払って取り組んでください。</p>				

①	基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	 	100	0	B
生11	先生方は、わかりやすい授業をしていると思いますか。	 	86	14	B
保11	先生方は、わかりやすい授業に努めていると思いますか。	 	79	21	C

考察	<p>教師と生徒の評価が分かれた項目である。特に教師の自己評価に対して、生徒にまだ否定評価がある点を我々は大いに反省する必要がある。校内研究で「学び合い」に取り組んでいるが、その中身はどうであろうか？日々の授業改善はどうであろうか？市松模様にして学び合いをさせているだけではないか？”学びの共同体”の授業づくりは、わからない生徒を絶対に一人にさせないところにその価値がある。授業中の教師は、そこに細心の注意を払うべきなのだが、この教師の活動が不十分だと、理解が遅い生徒が取り残されてしまう。”学びの共同体”に取り組んでいる多くの学校において、この部分が足りなくて向上が見られないケースが多々ある。我々はもう一度、理論と実践に学び直すことが必要ではなからうか。若干ではあるが、生徒評価・保護者評価とも向上が見られることは、我々の研究の方向性が間違っていないことを示している。このことを励みにして一層努力し続けたい。</p>				
	<p>・校内研究において、理論研究を充実させ、授業で行うべき重要なポイントを全職員がしっかりと学び直す。</p>				

改善	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校への視察（県内外）を通して、より良い実践に学ぶ。 ★『担当⇒研究主任，教務主任』 				
②	生徒の思考力・判断力・表現力，学習意欲を向上させる教科指導のあり方や教育内容の工夫改善に努めている。		100	0	B
生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。		87	13	A
保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。		77	23	C
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・上記①改善案に追加して，平素の授業の校内自主公開と，参観計画を立案する。ベテラン教師が先頭に立って授業改善をおこない，それを若手教師が参観する体制づくり。お互いに学び合う体制づくり。 ★研究主任，教務主任が中心となって参観計画を立案する。 				
考察	<p>教師の肯定評価100%に対して，生徒の10%超，保護者の20%超が否定的な評価をしている。全校生徒443名における%なので，それぞれ40名，80名を超える否定評価があることになる。授業は教師の自己満足であってはならない。それを改善するための学びの共同体研究であるはずだ。いくら授業中に教師が一生懸命に話していても，それが生徒にとって意欲の向上につながらなければ，授業改善は絵に描いた餅でしかない。毎時間毎時間の取り組みであり，教師の負担はもちろん小さくはない。しかし，授業は学校において最も大切な教育活動である。我々はもう一度襟を正して自分自身を見つめ直す必要がある。</p>				

Ⅲ 学習指導・進路指導(1)

③	研究主題を意識した「学び合い」のある授業を実践している。		85	5	B
生12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたい、学び合いのある授業を進めていると思いますか。		89	11	B
保12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたい、学び合いのある授業を進めていると思いますか。		77	23	C
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・上記①と②の改善案を中心に，講師の招聘や，管理職による授業観察において指導を続けていく。 ★校長，教頭が中心となって，授業観察による指導助言を行う。また研究内容に適した講師を招聘し指導を仰ぐ。 				
④	少人数グループや習熟度別授業の実施，また，発展的な内容を取り入れるなど，個に応じた指導を行っている。		76	8	C
			94	6	B
			87	13	A

いて

生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。		88	12	A
保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。		77	23	C
改善	・上記①②③と同じ。校内研究を中心により一層充実した取り組みにしていく。				
⑤	指導と評価の一体化を心がけ、生徒の意欲や自信につながる評価を行っている。		97	1	B
生14	先生方は、いろいろな場面で、あなたが努力したことを認めてくれますか。		83	17	B
保14	先生方は、お子さんの努力したことを認めてくれて、さまざまな面から評価していると思いますか。		82	18	B
改善	・学習面の評価については、これまでと同様に説明責任をしっかりと果たすよう取り組む。★各教科担任の不断の努力による。 ・生活面の評価については、生徒の変化や成長を敏感に感じ取り、評価に生かすよう取り組む。★学級担任、部活動顧問、各学年職員の連携協力による。				
⑥	生徒が自らの生き方について考え、正しい職業観を身に付けることができるように進路指導を行っている。		82	6	B
改善	・若草中学校の教育課程に基づき、進路指導が着実に実践されている。今後は、内容をより充実させるよう、PDCAサイクルを生かして取り組んでいく。★進路指導主事、キャリア教育担当、各学年主任が中心になり、取り組み内容を改善していく。				
考察	<p>3年生にとっての進路指導は、間近に迫った重要な事柄であり、教師も生徒も2学期から3学期にかけて、非常に真剣に取り組んできている。生徒にとっては、人生最初の大きな選択のため悩みも多々あるだろうが、教師が一生懸命に寄り添って相談に乗りながら、より良い進路選択に向けての指導を続けている。2年生は2学期に職場体験を行い、自分の進路と働くことを結び付けての学習を深めている。1年生は福祉教育を行い、自分のキャリアを積み重ねる学習を行った。これらの取り組みは、将来の社会的な自立に向けて、自分自身の進路を考える上での基礎基本となる。今後も継続的、系統的に行っていききたい。</p>				

ご意見

- ・教職員の評価に比較して保護者の評価が低い点が気になります。どのような理由があるのかの分析が今後必要かもしれません。
- ・学習指導、進路指導は大切であり、生徒の将来像に結びつき、授業への意欲につながると思います。
- ・学び合いの授業は全国的に広まっていると聞きます。また南アルプス市では市を挙げて取り組んでいるとも聞きます。生徒の学力向上につながる大切な取り組みなので、ぜひ先生方も研究を重ね、さらにより良い授業を目指してください。
- ・評価結果を見ると、先生と生徒・保護者との認識のギャップが見られます。そのことを埋めるには、いかに生徒の意識を高めるかが重要だと思います。そのための創意工夫や改善努力が必要かと思えます。
- ・生徒たちにとっては、自らの将来について考え始める年齢に達し、家庭はもちろんのこと、先生は一番身近に接する存在でもあります。時や内容に応じて適切なアドバイスをお願いします。生徒は必ずや成長すると信じます。

①	生徒理解のために生徒とのコミュニケーションを図る努力をしている。		97	1	A
			97	5	A
生15	先生方は、生徒の意見をよく聞き、相談に乗ってくれていると思いますか。		84	16	B
			85	15	A
保15	先生方は、相談や悩み事について、適切に応じてくれていると思いますか。		78	22	C
			82	18	B
生16	学級担任の先生には、気軽に何でも相談できますか。		70	30	C
			77	23	C
保16	お子さんは、担任の先生になんでも相談していますか。		41	59	C
			60	40	C

考察

教師と生徒の関係性について、相変わらず生徒及び保護者の総合評価Cが多い。しかしながら、すべての項目においてははっきりとした向上が見られることも事実である。特に生徒アンケート項目15及び16の「相談に乗ってくれるか」「担任の先生に何でも相談できるか」という問いに対して、約8割の生徒が肯定していることは、思春期真っ只中にある中学生の状況を考えると、素晴らしい結果であると言える。これは日常における人間関係がしっかりと構築されているからに他ならない。このよき関係は今後もしっかりと継続していきたい。そしてその先生方の姿勢は、少しずつだが着実に保護者にも理解されていくだろう。よき方向に向かっていくことは、今回の評価結果に十分表れている。

改善

・先生方の努力が報われる結果となってきている。これは総合的な努力の結果であるため、今後とも生徒に寄り添った指導や取り組みを、教師全員で確認し意識していく。
 ★全教師で学校評価結果を確認し、受け止め、さらなる改善を目指していく。(PDCAサイクルの実施)

②	基本的な生活習慣、生活のルールや決まりを身につけさせる指導を行っている。		100	0	A
			100	0	A
生8	あなたは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。		89	11	B
			86	14	A
保8	お子さんは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。		87	13	B
			87	13	B

<p>考察</p>	<p>学校が落ち着いているのは、生徒の基本的な生活習慣やルールが定着・向上しているからに他ならない。集団生活には様々なルールや約束があり、それを遵守するからこそ皆が気持ちよく生活できる。例えば人として守らなければならない道徳的な行為はもちろん、学級における清掃当番や給食当番、班の係分担などに始まり、学年や生徒会の役割分担、部活動での役割分担など、たくさんの場面で生徒の活動があり、その一つ一つに教師が細かく指導を行っている。逆の言い方をすれば、生徒はその様々な活動を通して社会性を身に付けていくのである。ここで教師の姿勢が問われるが、肯定評価100%という一枚岩の評価は素晴らしい。だからこそ学校が安定するのである。もちろん中にはまだまだ指導が必要な生徒もいる。そのような生徒の指導も一枚岩になって、粘り強く指導を続けていきたい。</p>		
<p>改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も一枚岩の指導を継続する。★生徒指導主事を中心にして、全職員で時に応じ場に応じて確認する。 ・指導が必要な生徒には、様々な取り組みを通して改善を促していく。 ★担任や学年職員、関係職員による個別指導と全体指導（生活指導、保健指導、食育指導等）を継続する。 		
<p>IV 生徒指導・道徳指導について</p>	<p>③ 一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っている。</p>		<p>97 1 B</p>
	<p>④ 生徒支援委員会（生徒指導部会、ケース会議含む）は、組織的・計画的に運営され、有機的に機能している。</p>		<p>94 2 B</p>
	<p>考察</p> <p>項目③については、肯定評価100%と素晴らしい。これは、例えば学級通信や学年通信の内容にも表れており、また様々な行事や活動に対する生徒の取り組み状況からも十分に伝わってくる。時代はグローバルと言われるが、多様性の理解は遠い地域との関係性ばかりではなく、まず自分の身の回りの人々や仲間を受け入れることから始まる。その意味では、大変素晴らしい教育・指導が行われていると言えよう。</p> <p>項目④については、若干評価が下がっている。もちろんこれらの会議は組織的・改革的に運営されていることは疑いの余地はない。課題は有機的に機能しているかどうかである。つまり、これらの会議の内容は、情報交換を出発点として、課題の改善に向けての具体的方法論に言及していくことが必要となる。ここがやや弱いのかもかもしれない。多くの知恵を出し合い、より有機的な会議となるよう取り組んでいきたい。</p>		
	<p>改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援委員会の内容を見直し、学校内外の専門的知見を持つ方々を積極的に招き、多くの人の力で解決に導く会としていく。 ★「生徒指導部会⇒生徒指導主事」「ケース会議⇒特別支援C、養護教諭」が中心となって創り上げていく。 	
	<p>⑤ 道徳の授業を年間計画に沿って実践し、道徳の実践力を高めるための指導を授業以外でも日常的に取り組んでいる。</p>		<p>73 9 C</p>
<p>生17</p>	<p>学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。</p>		<p>87 13 B</p>
<p>保17</p>	<p>学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。</p>		<p>76 24 C</p>
<p>考察</p>	<p>教師評価が低いのは、道徳の授業としての実践に課題があることが原因として挙げられる。残念ながら、本校を含め多くの学校で道徳の時間が他の時間にとって代わることが依然としてある。もちろんそれは止むに止まれぬ理由であることは重々承知しているし、現状の道徳授業が教師にも生徒にも内容がマンネリ化していることも事実である。だが、次期学習指導要領では、道徳は「新しい教科 道徳」として教科化され、「考える道徳・議論する道徳」として実施され、評価され、通信票や指導要録にも記載されることが決まっている。毎週1時間の授業時間にしっかり取り組むことは、法的に教師に課せられた義務であることを我々は忘れてはならない。</p> <p>一方、生徒及び保護者の評価は向上している。これは教室での1時間の授業だけでなく、学校教育のあらゆる部分において道徳的な教育がなされているという評価である。道徳の本質は「その時々起きた出来事をどのように考えどのように行動するか」である。つまり学校における指導とは、瞬間瞬間の対応や行動を指導することであり、日常生活のあらゆる場面に指導対象がある。その指導が改善し充実していることが生徒や保護者から評価されたことであり、大変素晴らしいことである。</p>		

改善	<ul style="list-style-type: none"> 「新しい教科 道徳」としての道徳授業への取り組みを、次期学習指導要領に先駆けて実践する。道徳教育推進教師のリーダーシップの下、全職員が授業完全に取り組む。また校内研究にも組み込む中で、実践研究を進める。 ★道徳教育推進教師、研究主任、教務主任、教頭が中心となり、具体的な取り組みを活性化させる。 											
⑥	不登校やいじめについて、積極的な情報収集を行い、早期発見・早期対応を意識して取り組んでいる。	<table border="1"> <tr> <td>62</td> <td>38</td> <td>100</td> <td>0</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>48</td> <td>48</td> <td>97</td> <td>3</td> <td>B</td> </tr> </table>	62	38	100	0	A	48	48	97	3	B
62	38	100	0	A								
48	48	97	3	B								
考察	<p>不登校やいじめは、多くの学校が取り組まなくてはならない喫緊の課題である。まず取り組まなくてはならないことは、不登校やいじめを生まない学校づくり人間関係づくりである。そしてもしも不登校やいじめが起きるような事態になってしまった時には、早期発見・早期対応が最も大切である。本校の場合には、担任による日常的な観察、教育相談週間、諸問題アンケート、毎週の生徒指導部会、定期的生徒支援委員会を行い、その結果を頻りに情報交換している。そのため「いじめ」については早期発見につながり、早期解決した例もある。「不登校」については、その理由や背景が個々によって異なり、対応も一人一人異なる。そのため担任、学年職員、不登校担当等による組織的な、そして継続的な対応が今後とも必要である。</p> <p>評価は若干下がってはいるものの、依然高いレベルであり、この状況を維持していきたい。</p>											
改善	<ul style="list-style-type: none"> 今後も組織としての取り組みを継続させ、いじめや不登校を生まない学校づくり、早期発見・早期対応に努める。 ★全職員で情報交換し取り組みを行う（生徒指導主事、不登校担当、養護教諭、SC、SWを中心とした組織対応）。 											
ご意見	<ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校は全国的な問題であり、悲惨なケースもあります。ネット社会で大人には理解できない子どもの世界もあります。若草中学校では先生方が熱心に取り組んでくださっていると思います。 担当教職員だけでなく、全教職員で情報を共有し、連携しながら課題に対処していただき、又課題によっては担当教職員の心身の重荷にならないようにも配慮していただきたいと思います。 先生と生徒とのコミュニケーションの状況は、評価は低いものの、前期比改善されてきており、相互の信頼関係が醸成されてきている状況が見て取れます。さらなる変更を目指してください。 新たな教科としての道徳授業はもちろんのこと、生きた道徳授業である「日常生活上の道徳」も両方大切なので、共に力を注いでください。 											
①	生徒の自主性を育成し、学級や学年、学校生活の充実を図るための指導を行っている。	<table border="1"> <tr> <td>45</td> <td>55</td> <td>100</td> <td>0</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>68</td> <td>100</td> <td>0</td> <td>B</td> </tr> </table>	45	55	100	0	B	32	68	100	0	B
45	55	100	0	B								
32	68	100	0	B								
②	さまざまな行事や活動を仕組み、達成感や成就感が満たされる内容を工夫している。	<table border="1"> <tr> <td>33</td> <td>67</td> <td>100</td> <td>0</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>63</td> <td>91</td> <td>9</td> <td>B</td> </tr> </table>	33	67	100	0	B	28	63	91	9	B
33	67	100	0	B								
28	63	91	9	B								
生18	学校の行事や生徒会の行事など、学校の行事は充実していると思いますか。	<table border="1"> <tr> <td>62</td> <td>30</td> <td>92</td> <td>8</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>58</td> <td>31</td> <td>89</td> <td>11</td> <td>A</td> </tr> </table>	62	30	92	8	A	58	31	89	11	A
62	30	92	8	A								
58	31	89	11	A								
保18	子供たちが活動する学校の行事は充実していると思いますか。	<table border="1"> <tr> <td>34</td> <td>56</td> <td>90</td> <td>10</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>35</td> <td>52</td> <td>87</td> <td>13</td> <td>B</td> </tr> </table>	34	56	90	10	B	35	52	87	13	B
34	56	90	10	B								
35	52	87	13	B								
考察	<p>どの設問についても肯定評価が高く、特に生徒のアンケート結果からは（a:そう思う）という回答が多く寄せられており、総合評価も前期・後期ともAとなっている点は高く評価できる。特に二学期は「学園祭」「持久走記録会」「職場体験」「生徒総会」「生徒会選挙」「芸術鑑賞教室」「保健集会」等、数多くの行事が開催され、その取り組みの過程や結果に生徒が満足していることが事後のアンケートや作文等、あるいは生徒の態度や表情等からも窺える。これらの行事は毎年行われており、実施後には成果と課題を明確にしているが、今後も常にPDCAサイクルを意識し、さらに良いものとなるように改善し、次年度に引き継いでいきたい。課題としては、さらなる「生徒の自主性の育成」が挙げられよう。自らの手で創り出す喜びを味わわせ、達成感や満足が高まるよう取り組みに工夫を加えていきたい。</p>											
改善	<ul style="list-style-type: none"> PDCAによる評価・改善システムのさらなる充実（生徒の自主性を着眼点として計画・評価・改善を図る）。 ★職員全員がPDCAサイクルにおいて関わり、その過程において校長、教頭より指導を行う。 											

V 特別活動に

③	朝読書や図書館の活用を積極的に進め、豊かな感性の育成を図っている。	52	45	3	97	1	A
		55	45		100	0	A
④	充実した委員会活動や部活動を行うことができるような指導に努めている。	37	63		100	0	B
		32	62	6	94	6	B
考察	<p>毎日の朝読書の時間には、生徒の真剣に本を読む姿が見られる。また二学期に実施された読書週間では、担任以外の先生方が各教室を回り、本の紹介や読み聞かせを行い、本や読書に対する興味関心を高める取り組みを行った。これらの活動が、生徒の豊かな感性の育成に役立つことはもちろん、様々な教育効果が期待できるのは言うまでもない。ただし、学校での読書活動は良好であっても、家での読書に結びついているかという点、まだまだ不十分な状況である。家読（うちどく）の取り組みは、全体的な取り組みであるが、なかなか成果が出にくい取り組みでもある。継続した取り組みが今後とも必要である。</p> <p>委員会活動や部活動の指導、特に部活動においては非常に熱心な指導が行われており、生徒の体力や技術の向上のみならず、人間性の涵養にも効果的に働いている。部活動も教育活動の一環であり、アクティブ・ラーニングの対象となることから、今後は生徒一人一人がより主体的に、仲間との関連の中で、自分の知識や技能を高めていくような指導が求められる。</p>						
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝読書の一層の充実（★各学級担任及び学年職員の連携）と、図書館活用の推進（★司書教諭、司書のリーダーシップ） ・新たな部活動の在り方（アクティブ・ラーニング）の確認と実践 ★校内研による研究と各部活動顧問の自己研修 						
ご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭を見せていただき、生徒たちが一生懸命に取り組んでいる様子がうかがえました。部活動等も成果が見られ、読書への取り組みもよいと思います。ただ読書の時間に宿題をやる生徒がいるのは残念ですが・・・。 ・多様な活動、体験は財産になり、心の成長にもつながると思います。 ・中学生も立派な大人ですから、やられているとわかると意欲は減少します。やはり達成感・満足感が高まるような取り組みを工夫していきましょう。 						

①	地域や保護者からの情報や要望を真摯に受けとめ、日々の教育活動に反映できるように努めている。	42	58		100	0	B
		50	44	6	94	6	B
②	さまざまな学習活動で、地域の施設を利用したり、地域の人々に協力を要請するなど、地域連携を深めている。	12	64	24	76	8	C
		18	58	24	76	24	C

考察	<p>若草地区は、学校教育への関心が高く、学校評価に関するアンケートだけでなく、日々様々な情報を寄せてくれ、また称賛や批判も数多くある。これらの声すべてが、学校教育の改善・向上にはなくてはならないものである。特に、今後は「チーム学校」の考え方の下、専門的な力を持った方々と共に、課題の解決に向かうことが求められる。またコミュニティ・スクールがすべての学校に必置されることが提言されており、学校は地域創世の中心的役割も担うこととなる。地域とのつながりがより重要視される中、地域や保護者の声はさらに学校教育にとって重要な要素となるであろう。</p> <p>このような状況の中、地域連携をより深めていくことは、学校にとって喫緊の課題とも言えよう。現在行われている地域連携も数多い。しかし、その連携は学年ごとであったり、委員会ごとであったり、教科ごとであったりと、それぞれの担当がそれぞれの場面で取り組んでいるのが現状である。学校全体として地域連携をより活性化させるには、組織的な取り組みにしていく必要があり、そのための方策を検討していかなくてはならない。</p>						
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携のための組織的な取り組みを検討する。 ★校務分掌として地域連携担当の設置を検討する。（学校長の指導の下、教頭・教務主任とで原案検討する） 						
③	学校・学年・学級だより等の諸たよりを定期的に発行し、またホームページを活用して、学校や生徒の様子を積極的に公開している。	29	54	14	83	6	B
		32	53	12	85	15	B
④	学校は、いろんなたよりのホームページなどで、出来事を積極的に連	43	40	13	82	18	B

の連携について

エ19	<p>絡し、また公開していると思いますか。</p>	<table border="1"> <tr> <td>45</td> <td>39</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> </table>	45	39	9	7	84	16	B				
45	39	9	7										
保19	<p>学校は、各種たよりやホームページなどで、積極的に情報公開を行っていると思いますか。</p>	<table border="1"> <tr> <td>30</td> <td>50</td> <td>18</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>33</td> <td>52</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> </table>	30	50	18	2	33	52	9	6	80	20	C
30	50	18	2										
33	52	9	6										
考察	<p>各学年主任が週に一度定期的に発行している学年通信は、学校の様子や予定が生徒・保護者に伝わり、非常に重要な役割を持っています。同時に月予定も毎月HP上にアップされ、学校の予定は家庭や地域にも公開されています。保健、図書、給食に係わる便りも定期的に発行され、学級担任による学級通信の発行も、機をとらえた様々な情報が的確に伝えられていることは大変素晴らしいことだと思います。今後とも継続が望まれます。</p> <p>一方、ホームページの充実については依然課題が残ります。前期に比較して後期以降のホームページは多少なりとも情報が充実し、学校評価にも若干の改善が見られました。しかし十分かという点、保護者や地域が求めている姿とはまだ差があります。さらなる充実のための手立て（内容も含めて）を検討する必要があります。</p>												
改善	<ul style="list-style-type: none"> 各種便りについては、今後（来年度以降）も継続する方向で確認する。★年度初めの職員会議での確認⇒教務主任 HPの内容検討を行い、詳細なコンテンツを決定し、更新担当者を定めていく。★情報委教育主任から各担当者への指導 												
ご意見	<ul style="list-style-type: none"> 考察、改善の通り、いろいろ工夫されていることがわかります。若草ホールを使っている地域の人に向けた発表会などはどうでしょうか？（音楽等）。ホームページ、教頭先生の「雑感」は好評です。防災訓練も自治会と協力してできるとよいと思います（3年に一度くらい）。 保護者アンケートにありましたので「雑感」をホームページで見せていただきました。教職員と生徒、保護者との話すきかけ、また道徳教育にもつながるようにも思い、次回も見たいです。 学校、生徒の環境づくりは、地域の方々との交流、顔の見える関係づくりが大切だと思います。 地域社会の閉鎖性が進む中、子どもたちを健全に育成するためには、家庭はもちろんのこと、学校・地域が互いに補完し合って 												